

朝鮮学校で学ぶことの意味-朝鮮学校の処遇と現状

2013/5/12 於) 移民政策学会・甲南大学

山本 かほり (愛知県立大学)

1. 朝鮮学校が現在直面している問題

- ・ 2010年4月に開始された「高校無償化」からの排除
→各種学校認可をとった外国人学校の生徒を制度の対象にするという意味で画期的だったはず。しかし、拉致問題など朝鮮民主主義人民共和国（朝鮮）との政治外交上の問題を理由に留保して発足。二転三転したが、結局、安倍政権による正式に「不指定」
(省令を「改正」して、根拠省令も削除)
- ・ これがきっかけになり、都道府県・市からの補助金も停止、凍結の方向
(大阪, 東京, 宮城, 埼玉, 神奈川, 広島など)
→朝鮮総連と朝鮮の関係を「問題視」
大阪のケースには、顕著にあらわれる。

2. 朝鮮学校とはどのような学校なのか？

- ・ 日本の敗戦後（朝鮮半島にとっては日本の植民地支配からの解放）、日本国内にできた「国語講習所」が起源とし、学校としての体制を整えた。
- ・ しかし、閉鎖命令を経て、自主学校、公立学校の分校として存続。次第に大学校まで有する体系的な民族学校としての体制を整えた。
- ・ 在日本朝鮮人総連合会（総連）、朝鮮民主主義人民共和国（朝鮮）との関係
→民族学校の運営を支えてきた

3. 現在の朝鮮学校

- ・ 全国に約70校（1万人程度の児童、生徒、学生）
→在籍者の減少により統廃合
- ・ 理念
→民族的意識、民族的素養、歴史認識など育成
→同胞社会への寄与
- ・ カリキュラム
「6. 3. 3制」
日本の学習指導要領に準じた学習内容 + 民族科目（朝鮮語、朝鮮地理歴史、朝鮮現代史など）
徹底した「朝鮮語」教育（日本語科目以外は原則朝鮮語、学校内の公式言語も朝鮮語）
- ・ 「北朝鮮」の学校なのか？
Yes or NO

4. 朝鮮学校で学ぶことの意味-参与観察から

- ・ 調査概要（2011年9月から週一回の参与観察）
- ・ 民族科目の意味
- ・ アイデンティティ
- ・ 朝鮮学校がもつ意味（保護者、生徒）
→「肯定的なアイデンティティ」の形成

5. 朝鮮学校の処遇を改善させること

- ・ 他の外国人学校の処遇改善
- ・ 他の外国人学校の日本社会における意味・意義の捉え直し